

「ふくひびき」における鉄コーティング直播の 苗立ちと穂数・収量への影響

福島県農業総合センター 作物園芸部稲作科

1 部門名

水稻－水稻－水稻直播

2 担当者

藤田智博・佐久間祐樹

3 要旨

飼料用米のふくひびきは、鉄コーティング直播栽培で苗立数は60～80本/㎡とやや少なくても、その後の管理を徹底することで穂数が確保され、粗玄米重75kg/a程度となる。

- (1) 収量を粗玄米重75kg/aとした場合、㎡当たり籾数は340×100粒/㎡程度が必要となる(図1)。
- (2) この㎡当たり籾数には穂数が350～375本/㎡程度(図2)、幼穂形成期の葉色を葉緑素計(SPAD-502)で40程度を維持する必要がある(図3)。
- (3) 苗立数は60～140本/㎡で出芽後の浅水管理等を徹底することで必要な穂数が確保できる(図4)。

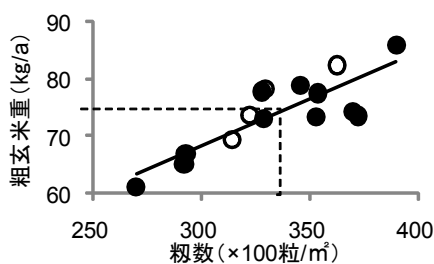


図1 籾数と粗玄米重

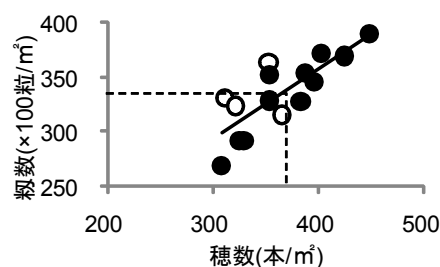


図2 穂数と籾数

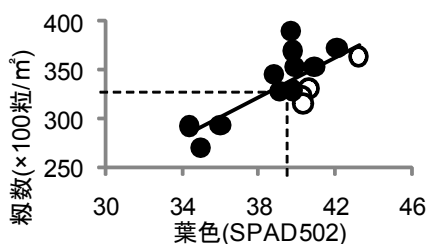


図3 幼穂形成期の葉色と籾数

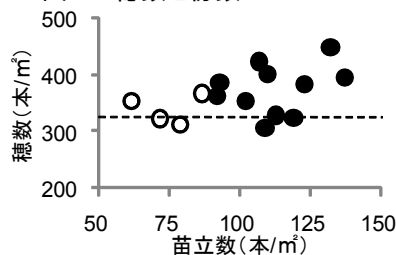


図4 苗立数と穂数

注) 図1～4の○は苗立ち62～87本/㎡

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成22年度～26年度
- (2) 研究課題名 寒冷地における地域有機質資材活用による飼料用米低コスト多収生産技術の確立 (飼料用稲の有機資材活用による多収栽培技術の開発)
- (3) 参考となる成果の区分 (指導 参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成24年度参考となる成果

「ふくひびき」を用いた鉄コーティング直播栽培の生育目標と耕畜連携の堆肥活用